

令和5年度大阪府立門真西高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

《日時》令和 6 年 2 月 14 日(水) 10 時～11 時 30 分

《場所》校長室

《出席者》

・委員

木村 雅則(四天王寺大学 教授)

峯松 大輔(門真市教育委員会 教育部 統括参事)

脊戸 利子(門真市立門真はすはな中学校 校長)

杉井 信夫(門真市立速見小学校 校長)

中内 恵(本校同窓会)

谷田 麻里枝(令和 5 年度本校 PTA 会長)

・事務局(学校関係者)

校長 教頭 事務長 首席 2 名 教務主任 生徒指導主事 進路指導主事 保健主事

第 3 学年主任(首席と兼任) 第 2 学年主任 第 1 学年主任

1. 開会 校長挨拶
会長挨拶

2. 校長より、令和5年度学校評価(案)、令和6年度学校経営計画(案)、その他の資料について
(1)情報共有の方法について見直しが求められている。保護者アンケートの回収数減少。
(2)教職員の自己診断結果から、組織的な協働が不足しており、情報共有のシステム化や教員間のコミュニケーション強化が必要である。

3. 協議

(委員)学校経営計画の減少項目に関する考察が書かれているが、教育委員会などから指示があったのか。

(事務局)指示があったため、全ての減少項目について考察を記載している。

(委員)保護者アンケートの回答数について、なぜ減ったのか。

(事務局)2年前は6月の懇談の際にアンケートを実施しており、回答数が多かった。しかし、年度初めであることから判断材料が少ない為、2学期に実施時期を変更。昨年度の回答数が減ったため、今年度からアンケート回答方法を紙だけでなく、QRコードを読み込みオンラインでも回答できるようにした。しかし、案内を紙で配布していることから、保護者に届いていない可能性がある。来年度からは保護者用の Google アカウントを発行し、オンライン回答で行う予定。

(委員)門真市内中学校でも保護者アンケートを同様の手順(案内文を紙で配布し、回答を紙 or オンライン)で実施したが、回答数が減少した。

(委員)教職員自己診断の結果から、組織的な動きが課題に思えるがいかがか。

(事務局)「報・連・相」や、どの情報を誰に伝えるかといった部分がうまくいかなかった。対策としては、教員同士の普段からのコミュニケーションを促進する為、教職員を一つの職員室に集めることを目指している。

(委員)中学校訪問が回りきれていない、事前にノルマなどはないのか。

(事務局)中学校一覧表を作成し、希望制で訪問してもらう方法をとっている。訪問時期に先立って、教職員には説明会を実施している。

- (委員)各種検定の受験者数が増加している。生徒には成功体験が不足している可能性があるので、検定合格など小さな成功体験を増やしてあげることが重要。
- (委員)教員アンケートからホームページの活用が低いとの結果が出ている一方で、保護者からは「情報発信」に関する質問項目で良い結果が出ている。この違いに対してどのように考えているか。
- (事務局)教員側の認知が低い可能性がある。情報委員長が変わってから、HPの更新回数も増え、校長ブログも今年から開設し、更新されている。今後は教員に対しても情報発信の認知度を上げていきたい。
- (委員)進路状況について、例年と比較して変化はあるか。また、業種の広がりなどはあるか。
- (事務局)進学できる学力を持ちつつ、就職する生徒が多い。就職先については、例年同様門真市周辺の中小企業が中心。公開就職が増えている。
- (事務局)今年度は進路先として留学する生徒も。
- (事務局)今年度は就職指導を厳しいと感じやすい生徒がおり、フリーターに流れることも。就職指導が厳しいと言っても、社会人として当たり前のこと(提出期限を守る、挨拶するなど)を指導している。

4. 閉会 校長挨拶

以上